

課題名	S-4 温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究 1. 統合評価モデルによる温暖化の危険な水準と安定化経路に関する研究		
課題代表者名	肱岡靖明（独立行政法人国立環境研究所社会環境システム研究領域）		
研究期間	平成17-21年度	合計予算額	183,184千円（うち21年度 42,659千円） ※予算額は、間接経費を含む。

研究体制

- (1) 統合評価モデルを用いた温暖化の危険な水準および温暖化抑制目標に関する研究（独立行政法人国立環境研究所）
 - ・温暖化抑制目標に関する既存知見の整理と、評価基準・評価手法の検討（独立行政法人国立環境研究所）（H17-19）
 - ・統合評価モデルを用いた温暖化の危険な水準および安定化経路の評価に関する研究（独立行政法人国立環境研究所）（H17-19）
 - ・気候変動に関するリスクマネージメント方法論の確立に関する研究（株式会社三菱総合研究所）（H19）
- (2) 温暖化影響の全球プロセスモデルを用いた分野別影響関数（世界）の開発に関する研究（独立行政法人国立環境研究所）

I. 戦略課題S-4-1の全体構成

本研究課題では、GHGの濃度安定化等の温暖化抑制目標とそれを実現するための経済効率的な排出経路、および同目標下での影響・リスクを総合的に解析・評価するための統合評価モデル開発を目的とする。開発にあたっては、関連分野の影響予測・経済評価研究および適応策研究から得られる温暖化影響関数を統合評価モデルに組み込むことにより、精緻かつ現実的な影響推計を比較的簡便に実行できるようにする。本統合評価モデルを用いて、種々の温暖化抑制目標を前提とした場合の、「危険な影響」が発生する可能性とその発生時期を提示することを目的としている。評価対象期間としては、今世紀中頃（2050年頃）までを重点におきつつ今世紀末までを取扱う。『危険な影響』を如何に決定すべきか、については、衡平性、予防原則、不確実性といった観点から、新たな方法論・概念の開発を試みる。本研究課題において統合評価モデルの一環として開発する「気候・社会経済シナリオデータベース」は、サブ課題2（1）～（6）の研究課題において共通シナリオとして利用される。また、サブ課題2（1）～（6）で行われる影響予測・経済評価研究の結果を温暖化影響関数としてとりまとめ、統合評価モデルに組み込むことなど、他のサブ課題と緊密な連携をとりつつ研究を進める（図1）。

図1 サブテーマ1「統合評価モデルによる温暖化の危険な水準と安定化経路に関する研究」における研究体制（サブサブテーマ1と3はH20年度から合併）

